

ふじのくにHOPEオンコパネル[®]

がん遺伝子パネル検査を 受けられる方へ



遺伝子変異解析プログラム（がんゲノムプロファイリング検査用）

承認番号：30800BZX00090000



エスアールエル・静岡がんセンター
共同検査機構株式会社

遺伝子の変化とがん治療



がんは、身体をつくる細胞の中にある遺伝子が後天的に変化することで生じます。



近年、特定の遺伝子変化をもつがん細胞を攻撃する薬（分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬など）が使用されるようになっていきます。



がんに関わる遺伝子の**変化**を調べることで、新たな治療方法選択に役立つ場合があります。



がんゲノム医療

私たちのからだは約37兆個の細胞からなり、その一つひとつが約2万個の遺伝子によってコントロールされています。遺伝子は細胞が正しく働くための設計図であり、両親から受け継ぎます。遺伝子は常に変化しており、細胞にはそれを修正する力があります。しかしながら、時として正しく修正できずに変化が蓄積された結果、がんが生じることがあります。

技術の進歩によって、私たち一人ひとりがもつ遺伝子の変化を調べることができるようになりました。がん細胞の遺伝子を調べ、どのような変化が起きているのかを知ることで、その変化にあわせた治療を選択できる場合があります。このような、遺伝子の情報に基づいて患者さん一人ひとりのがんの性質にあわせた治療を行うのが「がんゲノム医療」です。

これまでのがん治療は、がんが生じた臓器（例えば、大腸がん、肺がんなど）に応じて行われてきました。しかし、近年では異なる臓器に生じたがんでも同じような遺伝子の変化が起きていることがあり、がんの原因である遺伝子変化にあわせた治療が有効であることが示されています。

がん遺伝子パネル検査 ふじのくにHOPEオンコパネル

がんに関連する遺伝子は多数あります。多数の遺伝子変化を同時に調べるのが、がん遺伝子パネル検査です。遺伝子の変化を知ることは、がんの特徴を知り、一人ひとりにあった治療戦略を立てる上での助けになります。

がん遺伝子パネル検査の1つであるふじのくにHOPEオンコパネルは、がんに関連する410個の遺伝子を対象に、どのような変化が起きているのかを調べる検査です。

この検査では、検査結果に基づいて、あなたの遺伝子の変化に対応した薬剤や臨床試験の情報が得られる場合があります。専門家チームが治療の選択肢を検討・提案し、患者さん一人ひとりに最適な治療法が説明され、実際の治療を進めていきます。



検査のながれ

STEP 1

検査の説明・同意

担当医から、検査の目的や内容、注意点について説明します。また、得られた検査結果をがんゲノム情報管理センター：C-CAT (p. 7参照) に送信してよいか、個人を特定できない形で新しい治療法などの開発に利用してよいかなど、検査結果の取り扱いについてご要望を伺います。

STEP 2

検査の実施

検体を国内の検査受託施設に送り、遺伝子の変化を調べます。

STEP 3

治療法の検討・提案

検査結果をもとに、「エキスパートパネル」と呼ばれるゲノム医療の専門家チームが議論します。

STEP 4

結果の説明

検査結果は、担当医から患者さんに説明します。検査結果や今後の治療方針について、ご不明な点は担当医にご相談ください。

メモ 

検査を受ける前に ご理解いただきたいこと

▶ 検査を受けることができる方

がん遺伝子パネル検査を受けるためには、固形がんであること、厚生労働省が指定した病院で受診するなど、いくつかの条件を満たす必要があります。この検査を受けることができる病院は全国に200施設以上ありますので、がん遺伝子パネル検査を希望される場合は、担当医にご相談ください。

▶ 検査結果と治療について

がん遺伝子パネル検査の結果、現時点で、検査を受けた患者さんの約10%が新たな治療につながっています。必ずしも有効な薬剤等の情報が得られるわけではありません。

▶ 二次的所見について

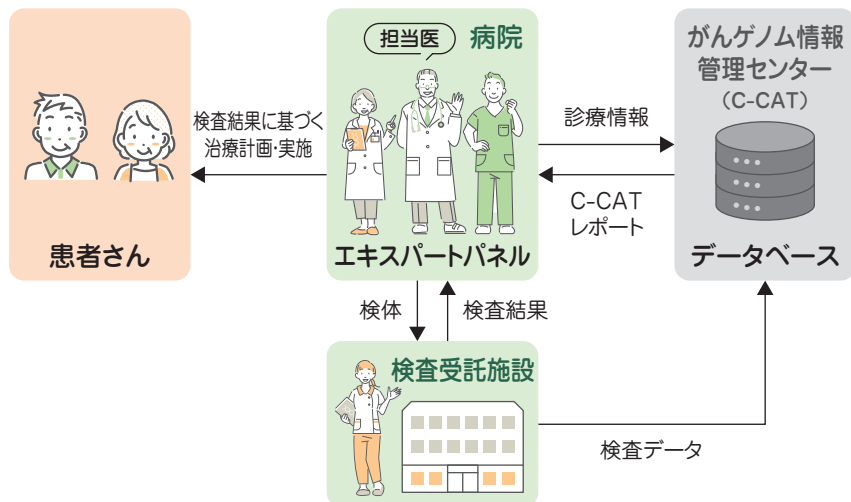
がん遺伝子パネル検査では、がん細胞特有の遺伝子変化の情報とは別に、生まれつきがんを発症しやすい体質に関わる遺伝子変化（二次的所見）が見つかることがあります。「知らないでいる」という選択肢もありますが、これを知ることによって、患者さんや血縁者の病気の早期発見や予防対策を行える場合があります。遺伝カウンセリングという相談の場もありますので、担当医にご相談ください。

▶ 検査データなどの管理

患者さんの個人情報を含む検査データは、匿名化など個人を容易に特定できない形に変換され、個人情報保護法や関係するガイドラインに則って適切に扱われます。

▶ がんゲノム情報管理センター（C-CAT）^{シー・キャット}

患者さんご本人の同意をいただいた場合、がんゲノム情報管理センター（C-CAT）に検査結果を送信します。C-CATは検出された遺伝子変化に対応する治療薬や臨床試験などをレポートにまとめてエキスパートパネルに返却します。なお、本検査はC-CATへのデータ送信を行わない場合でも受けることができます。



安心して検査を受けていただくために



がん遺伝子パネル検査

「がんゲノム医療とがん遺伝子パネル検査」に関する詳しい資料

<https://for-patients.c-cat.ncc.go.jp/>



監修 静岡県立静岡がんセンター病院

副院長・消化器内科

副院長・呼吸器内科

呼吸器内科部長

静岡県立静岡がんセンター研究所

副所長・診断技術研究部長

安井 博史 先生

高橋 利明 先生

鈿持 広知 先生

浦上 研一 先生